

令和4年度「教育活動改善アンケート」結果のお知らせ

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の「教育活動改善アンケート」(保護者アンケート回答率64%)の結果について以下のように報告させていただきます。今回のアンケートでは、学校の教育方針や指導内容、児童の学校生活などについて貴重な御意見をいただきました。教職員一同、今後は学年末に向けて履修内容を確実に把握して今年度のまとめを行うとともに、次年度の教育活動の改善・実施に努めてまいります。御協力ありがとうございました。

1 今年度の重点目標について

『「あったかことば」を広げよう～相手への優しさ・感謝の気持ちを伝える～』という到達目標の達成に向け、今年度は学校・家庭・地域の三者が次の2点の重点目標に協働で取り組んできました。

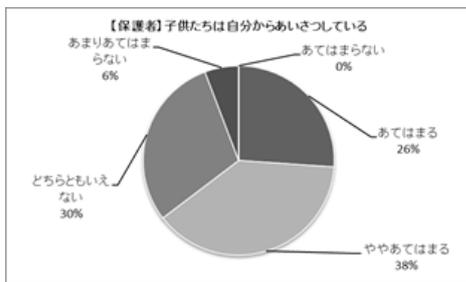
○自分からあいさつができる児童 ○場に応じた言葉遣いができる児童

三者が評価を行うアンケートを12月に実施しました。結果の分析と考察では、項目によっては単年度内の数値評価だけでなく、前年度との比較も行いました。

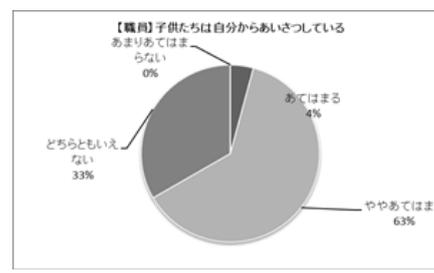
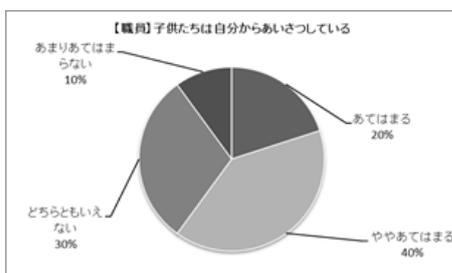
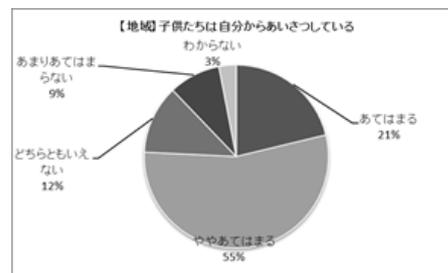
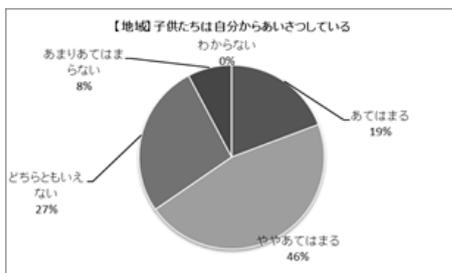
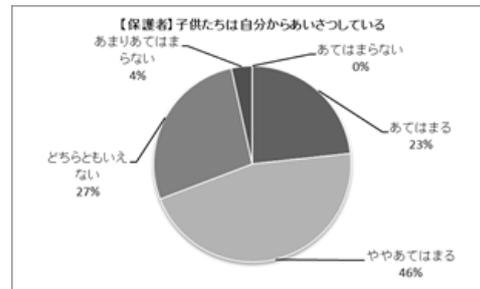
(1)「あいさつ」について

児童は「自分からあいさつしている(88%)」というように、自己評価が高い結果となりました。大人から見た「自分からあいさつしている」についての評価は、昨年度と比べ少しですが向上しています。(保護者：64%→69%) (地域：65%→76%) (教職員：60%→67%)。地域の評価が上がっており、「1年生など子供たちのあいさつが良くなっている。」という声も聞かれました。

昨年度(令和3年12月)

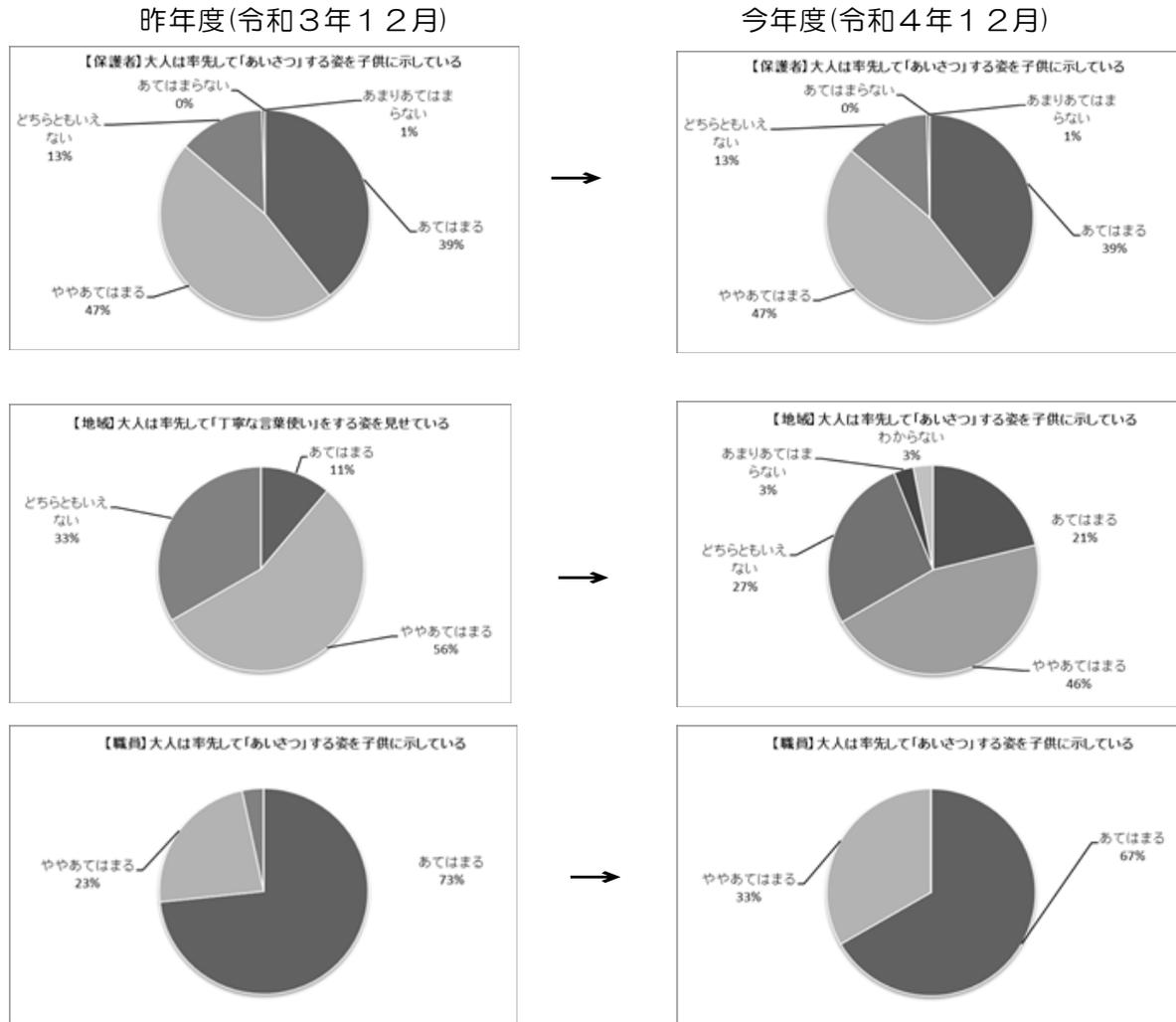


今年度(令和4年12月)



子供たちと大人の意識のギャップが大きい結果となっています。引き続き、子供たちに、自分からあいさつすることを働きかけていきたいと思ひます。

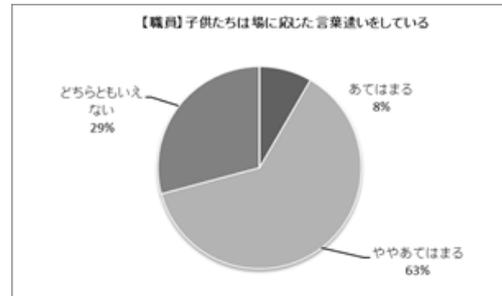
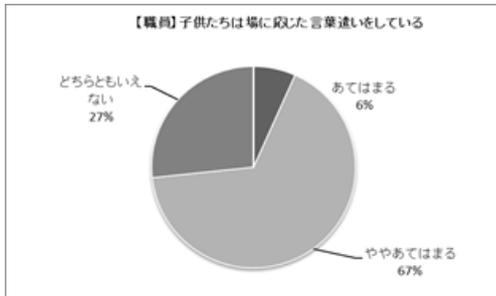
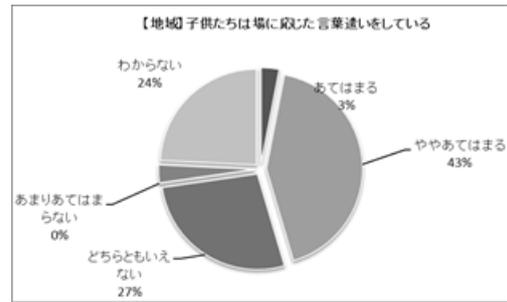
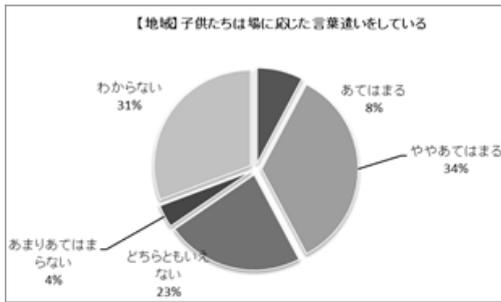
また、「大人は率先してあいさつする姿を子供に示している」ことについては、保護者、地域、教職員とも意識して取り組んでいることがうかがえます。地域は「あてはまる」の割合が増えています。



(2) 「言葉遣い」についてー

児童は「場に応じた言葉遣いをしている（92%）」と、自己評価が高い結果になりました。大人の評価は、保護者（68%）、地域（46%）、教職員（71%）と、ともに児童の意識を大きく下回る結果となりました。また、地域からは、「わからない」が24%、「どちらとも言えない」が27%でした。三者の評価はいずれも低い傾向にあり、子供との意識の違いが表れています。子供たちに対して「こんな場面では、このようにお話しする。」というような具体的な場面を想起させながら子供たちに働きかけることが必要と考えます。

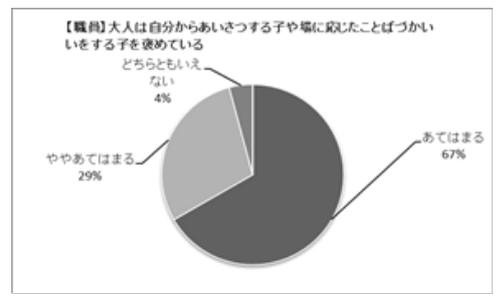
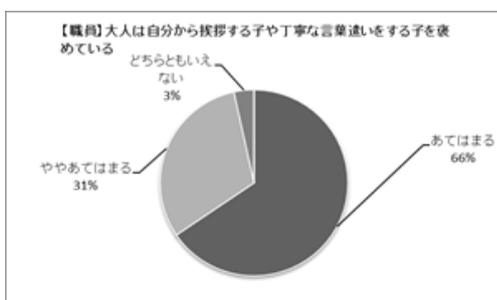
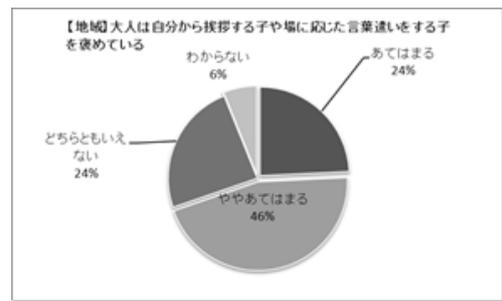
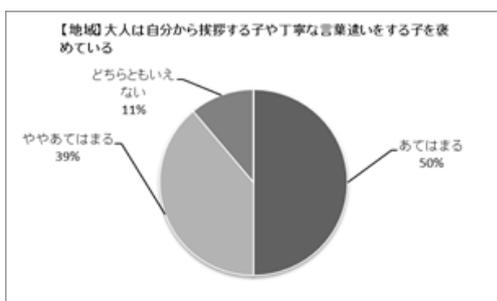
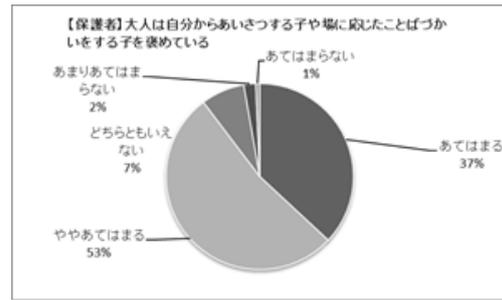
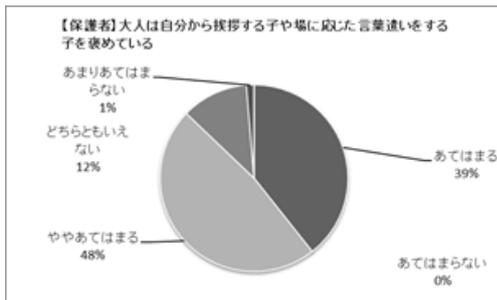




「大人は自分から挨拶する子や丁寧な言葉遣いをする子を褒めている」の設問では、保護者の肯定率（あてはまるとややあてはまるの合計）は昨年度より3ポイント上がり、90%に増加しています。

昨年度(令和3年12月)

今年度(令和4年12月)



場に応じた言葉遣いを具体的な場面で教え、できたら褒める活動を続けていくことが必要と考えられます。

2 次年度に向けて

(1) 取組と評価から

- ①「あいさつ」については、昨年度より少し向上いたしました。到達目標の達成基準としている80%の肯定的評価には届きませんでした。引き続き、児童に対して働きかけを行い、御家庭の協力を得ながら今後も継続して目標達成に取り組んでいきたいと思っております。学校では、児童会の取組等を通じて、自分からあいさつすることに取り組ませていきたいと思っております。
- ②「場に応じた言葉遣い」についても、具体的な場面を示しながら指導していききたいと思っております。学校では、全校一斉に指導する場面を設けるなど、手立てを検討していききたいと思っております。保護者・地域の皆様にも、引き続き「場に応じた言葉遣い」について協力を呼びかけていききたいと思っております。

(2) 令和5年度到達目標について

『「あったかことば」を学校・家庭・地域に広げよう』の目標を継続して取り組んでいきたいと考えています。

(3) 令和5年度重点目標

『「自分からあいさつができる児童』『場に応じた言葉遣いができる児童』について、学校・家庭・地域それぞれの評価を80%以上にする。』として三者で協力して子供たちに働きかけていきたいと考えています。また、加茂中学校区のコミュニティスクールでも、小中連携の取組として「あいさつ運動」の実施などを協議していききたいと思っております。

3 その他の結果について

以下は保護者アンケート中の各質問について「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合です。

「学校は教育方針を分かりやすく伝える努力をしているか(86%)」、「一人一人のよさを大切にしている教育を行っているか(82%)」、「教職員は適切に指導しているか(81%)」、「子供たちは友達と仲良くし、学校生活を楽しんでいるか(92%)」、「学校は緊急事態の対応や備えを適切にしているか(87%)」などの項目では、学校の取組に関しては保護者の皆様から概ね8割を超える評価をいただきました。

一方、「体力向上のための取組を行っているか(75%)」、「学校は保護者、地域と協力し合い、よりよい学校づくりに努めているか(79%)」については、8割を下回っています。児童アンケートでも外遊びをする児童の割合が73%から63%に減少しています。教師も一緒に外遊びをすることや外で遊ぶ遊び方の指導をするなど、教師から積極的に働きかけていきたいと思っております。

全校児童で取り組む行事や集会、異学年の交流など、感染症対策のため制限される状況が続いていますが、制限の中でもできる取組を引き続き工夫していきます。また、家庭・地域との連携については、学校だけでなく、ホームページ、ブログなどを活用し、より具体的な情報の発信に努め、学校での子供たちの姿を御覧いただく機会も可能な限り設けることができるよう努力します。

記述の部分でも保護者の皆様から、たくさんの御意見、御提案をいただきました。オンラインでの行事写真の購入、PTAでのベルマークの活用など、年度内に取組を始めています。GIGAスクール端末の更なる活用、メールソフト等を用いた欠席連絡やお便りの電子化についても、実施に向け準備を進めているところです。

今後も、教職員一同、よりよい学校運営に努めてまいります。皆様の一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。